

報 告

昭和62年度共通第1次学力試験の
出題教科・科目の出題方法等

国立大学協会では、昭和58年6月から「入試改善特別委員会」を設置して、大学入学者選抜方法の改革について鋭意検討が進められてきたが、昭和60年6月の国立大学協会総会において共通第1次学力試験の具体的な改善策として、昭和62年度の共通第1次学力試験の出題教科・科目が改正され、文部省から昭和60年6月29日付けで「昭和62年度の共通第1次学力試験の出題教科に係る解答方法等について」により通知された。

大学入試センターでは、この通知に基づき、昭和60年6月29日付けで各高等学校等に対し、「昭和62年度大学入学者選抜共通第1次学力試験出題教科・科目の出題方法等について」により通知するとともに、昭和60年7月から8月にかけて、全国7地区で開催した共通第1次学力試験説明協議会で説明を行った。

なお、昭和62年度大学入学者選抜共通第1次学力試験出題教科・科目の出題方法等は、次のとおりである。

教科	試験時間 (配点)	出題科目	出題方法等	科目選択の方法
国語	100分 (200点)	「国語Ⅰと国語Ⅱを合わせたもの」		
社会	60分 (100点)	「倫理と政治・経済を合わせたもの」 「日本史」 「世界史」 「地理」 「現代社会」		左記出題科目の5科目のうちから1科目を試験室で選択し、解答する。 「現代社会」を選択解答できる者は、高等学校「普通科」出身以外の受験者で、かつ、共通第1次学力試験の出願時にその科目の受験を申請し、承認された者に限る。

数 学	100分 (200点)	『数学Ⅰと数学Ⅱ、工業数理及び「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」を合わせたもの』	「数学Ⅱ」の電子計算機と流れ図は、出題範囲から除く。 「数学Ⅱ」については、「数学Ⅱ」を履修した者並びに「代数・幾何」、「基礎解析」及び「確率・統計」のうち2科目以上を履修した者のいずれにも対応した出題とする。 「簿記会計Ⅱ」は、前半の内容（①特殊な取引の記帳、②帳簿組織、③株式会社の記帳）を出題範囲とする。	「数学Ⅰ」については、全問解答する。「数学Ⅱ」、「工業数理」及び「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」については、これら三つのうちから一つを選択し、解答する。 ただし、「工業数理」又は「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」を選択解答できる者は、高等学校で新教育課程の当該科目を履修した者で、かつ、共通第1次学力試験の出願時にその科目の受験を申請し、承認された者に限る。
理 科	60分 (100点)	「物 理」 「化 学」 「生 物」 「地 学」 「理 科Ⅰ」	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の出題には、「理科Ⅰ」に含まれるそれぞれの科目の関連内容を含む。	左記出題科目の5科目のうちから1科目を試験室で選択し、解答する。 「理科Ⅰ」を選択解答できる者は、高等学校「普通科」出身以外の受験者で、かつ、共通第1次学力試験の出願時にその科目の受験を申請し、承認された者に限る。
外国語	100分 (200点)	「英語Ⅰと英語Ⅱを合わせたもの」 「ドイツ語」 「フランス語」		「英語Ⅰと英語Ⅱを合わせたもの」、これに準じた「ドイツ語」及び「フランス語」のうちから1科目を試験室で選択し、解答する。

- (注) 1. 「社会」及び「理科」の各出題科目の配点は、いずれも100点とするが、「数学」については、「数学Ⅰ」120点、「数学Ⅱ」80点（「工業数理」、「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」も同じ）とする。
2. 「工業数理」の使用単位系は、「SI」（国際単位系）に統一する。
3. 「工業数理」、「簿記会計Ⅰ・Ⅱ」は、「数学」の試験時間中に選択解答するものとして試験が行われるので、他の科目と同様に、電子式卓上計算機、そろばん、グラフ用紙、定規等の補助具の使用を認めない。
4. 「工業数理」又は「簿記会計Ⅰ・Ⅱ」を選択解答できる者は、昭和57年4月1日以降に高等学校の第1学年に入学した者に限る。
5. 「普通科」とは、高等学校の普通教育を主とする学科とする。ただし、高等学校設置基準（昭和23年1月27日文部省令第一号）第6条第2項により設置されている学科のうち、「理数科」については、「普通科」に含めて取り扱うものとする。

(参 考) 「社会」の出題科目の中で、「現代社会」に関して、従前は、必修科目又はこれに代わる科目の履修に対応して、「現代社会と倫理及び政治・経済を合わせたもの」として出題してきたが、今回は、必修科目としての「現代社会」と、選択科目としての「倫理と政治・経済を合わせたもの」とをそれぞれ独立した出題科目としている。